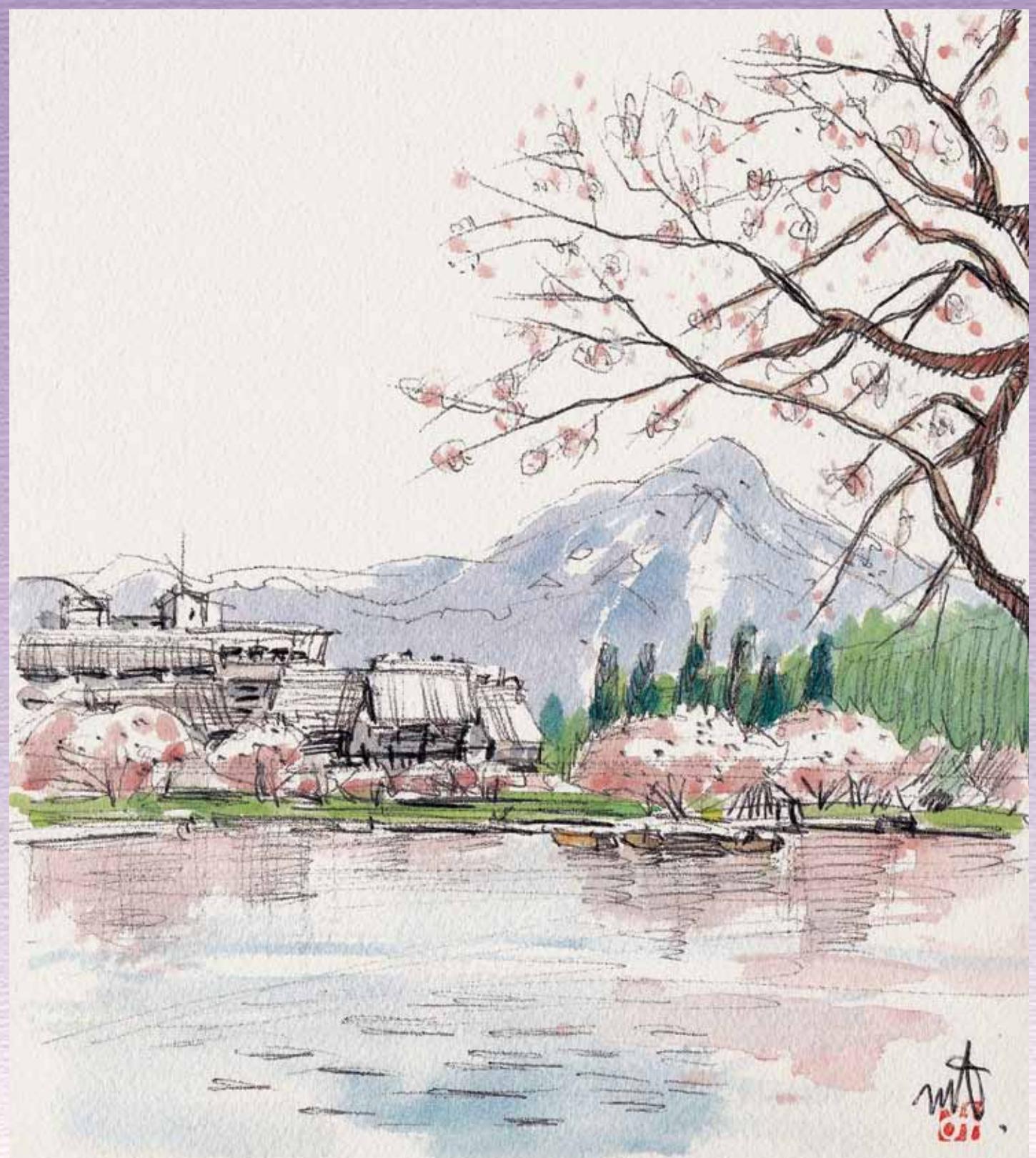


ICC Kyoto

公益財団法人 国立京都国際会館広報誌

春
2015
SPRING



Kyoto International Conference Center

共助社会づくりの熱源を創出し 「対流」を起こす。

人口の減少、少子化と超高齢化、多発する自然災害……。時代の変化とともに、国土設計に求められる要素も大きく変わりつつあります。

とりわけ地域コミュニティの崩壊により「人のつながり」が失われ、その再構築が急務の課題として挙げられています。「五右衛門風呂に対流を起こすには熱源が要る」と共助社会づくりの重要性を力説する奥野信宏教授に、最新の国土設計のグランドデザインについてお尋ねしました。



OKUNO Nobuhiko



奥野信宏氏

中京大学総合政策学部教授／国土審議会会长／共助社会づくり懇談会座長

1945年島根県出身。京都大学大学院修士課程修了後、京都大学経済研究所助手、名古屋大学経済学部助教授・教授、学部長、副総長等を経て現職。専門は公的支出を中心とする公共経済分析。経済学博士。国土審議会会长、内閣府共助社会づくり懇談会座長等の要職を兼任。著書『公共の役割は何か』(岩波書店2006年)、『地域は「自立」できるか』(同2008年)、『公共経済学第3版』(同2008年)、『新しい公共を担う人びと』(共著、同2010年)、『都市に生きる新しい公共』(共著、同2012年)他。

「国土のグランドデザイン2050」は、急速に進む人口減少や巨大災害の切迫等、国土形成計画(平成20(2008)年閣議決定)策定後の国土を巡る大きな状況の変化や危機感を共有しつつ、2050年を見据えた、国土づくりの理念や考え方を示すもので、これまで9回にわたり有識者懇談会を開催するなどしてとりまとめたものです。

(国土交通省HPより)

対流促進型の国土形成をテーマに

木下博夫館長 (以下、木下) このたびの「国土のグランドデザイン2050」には「対流促進型国土の形成」という副題がつけられています。今回グランドデザインをおまとめになった意義をお教えてください。

奥野信宏氏 (以下、奥野) 現在の国土形成計画(第6次)の正式発表は平成20年ですが、実際に策定されたのは平成16年です。その間に大きな社会変化がありました。一つは少子高齢化と人口減少、地域の疲弊、長引くデフレと不況、そして3・11東日本大震災と大津波。加えて韓国と中国を中心とした東アジアの発展と領土問題等々、予想すらできなかつた出来事が相次ぎました。そうした渦中に、日本の成長のエンジンをどうするか、疲弊した地方をどうするかなどの検討が差し迫って必要となり、グランドデザインの議論が始まられて、昨年7月に発表されたというのがおおよその経緯です。

木下 戦後の国土計画を振り返ると、敗戦による国土の荒廃のなかから、安全で安心な国土のためのインフラとして、治山治水から道路、住宅、そしてアメニティまで整備してきました。急激な経済成長を経て、現在は人口減少と少子高齢化が重なり、困難な局面でのまとめ役はご苦労も多かったのではと思います。

奥野 昭和37年の第一次の全国総合開発計画(全総)以来、各地域の社会資本整備は政府主導で進められてきました。しかし各ブロック圏も西欧の一国に相当する経済力を備えるようになり、いつまでも霞が関主導ではなく各地方で具体的な計画を作るようにして、平成16年に全総から国土形成計画に改定されました。

国土形成計画には全国計画と広域地方計画の二つがあります。全国計画は理念重視、広域地方計画は地域を核とした具体的な事業計画で、この両者をあわせて国の計画になり、発展を図るという方針に転換されたわけです。

木下 前回の国土形成計画では「対流」ということを強調しておられますし、今回のグランドデザインでも「対流型」がキーワードになっています。その意図はどのあたりにあるのでしょうか。

奥野 東京一極集中が依然として続いている。中部も関西も、それぞれ特色を持っていますが、東京の対抗力になるほどではありません。よく五右衛門風呂を例にするのですが、下の焚き口で火を燃やすことによって温度差が生まれ「対流」が生まれます。その対流を起こす仕掛けが、東京オリンピック・パラリンピックやスーパー・メガリージョン、コンパクト+ネットワーク、「共助社会」づくりに向けた民間主導の活動等です。いま各地域でさまざまなNPOのネットワーク化が成果を上げており、それらが対流を起こす熱源の見本だろうと思います。

五右衛門風呂に対流を起こす熱源

木下 東京と関西の都市圏を比較しますと、東京は同心円状で関西はトライアングル状です。関西はそれぞれが個性派でまとめるのはひと苦労ですが、いつたんまとまる強さを発揮します。

2019年から3大スポーツ祭典が開催されます。19年はラグビーワールドカップ、20年は東京オリンピック・パラリンピック、21年は関西ワールドマスターズゲーム。ラグビーと五輪は観戦型ですがマスターズは参加型で、海外からも多くの方々がいらっしゃいます。関西が一つになり、観戦のあと各地の巡回観光のような取り組みをすれば、ワールドマスターズの成果として大きな財産が残せるのではないかと考えています。

奥野 関西は京都・大阪・神戸の三都市の協調とライバル関係が大きなパワーになっています。観光での歴史街道計画なども官民あげての広域連携の大きな成果だと思います。特に強いのが大学です。京大・阪大・神大の三大学が、世界との人の対流を起こす大きな熱源にならなければいけません。ところが、世界一級の研究者を迎える環境はというとまだ十分ではない。海外からの研究者にとって、子どもの教育機関と医療機関の受け入れ体制は深刻な問題です。もうひとつ大切なのが国際空港へのアクセスです。

木下 土国政策は国内だけの問題ではなく、海外とどう交流するかという問題でもあります。関空と大阪・京都をどう結ぶか、関西はその発想が弱いように思います。海外の研究者を迎えることと、さまざまな分野での交流が必要となりますから、国土政策の観点からも応援していただきたいと思います。

奥野 二層の広域圏という考え方があります。一つはブロック圏で、もう一つは生活圏です。ブロック圏は、人口1千万人程度以上を単位とし、経済的に自立て、東京経由ではない世界的なネット

ワークを持つことが要件です。そのためには国際空港・港湾と高規格のアクセスが必要です。生活圏は、人口30万～50万人位を単位にその中心部に生活支援機能を整備し、生活道路などのアクセスを整備するというものです。何より重要なことはブロック圏の「自立」ということです。

木下 大阪の企業はこれまで東京に本社を移してきていますが、京都の企業は基本的に本社を移しません。京都には神社仏閣など文化的に大切な宝物がたくさんあり、当会館もそのなかにおいていたいだいているわけですが、私はこの会館は「大の小」にならなくていい、「中の大」か「中の中」で良いと思っています。京都にも1万人収容できる施設がほしいという声を耳にしますが、それが京都の身の丈にあっているかどうか考えるべきではないでしょうか。

人のつながりからなる 共助社会づくり

木下 これから的人口減少、高齢化のなかで「新たな公」という発想を持たれのお考えをお教えてください。

奥野 市場経済はかけがえのない人類の叡智の結晶だと思います。しかし完璧に機能してもできないことがあります。格差問題がその典型で市場経済では解決できません。それを補完するのが行政の役割ですが、行政にもできないことがある。

行政と市場が有機的に機能するには、ベースとして支える社会が必要です。社会というのは詰まるところ「人のつながり」で成り立っています。ところが、日本は成長過程で地域コミュニティが崩壊しがちではあった人のつながりが弱体化しました。それを再構築しようというのが「新たな公」、すなわち「共助社会づくり」です。なにも革命的なことをするというのではなく、日本の古い良いところをもう



いちど再認識しようということなのです。

木下 京都には「地蔵盆」という風習があり、コミュニティ形成の上で重要な役割を果たしていますが、そういうものは各地域にもたくさんあると思います。もういちど先祖が作ってきた仕組みを見直し、自分たちの地域は自分たちがしっかりと担う、そういう意識が定着すればと思います。

奥野 国土計画の基本的な理念は、人の交流連携が新しい価値を生み出すところにあります。もちろん時代とともに変わりますが、いまの時代に求められるのが人の連携による対流です。対流には熱源が必要です。コンベンションは大きな熱源の一つであり、それを支える京都国際会館も大きな熱源だと思います。京大などと連携して頑張っていただきたいですね。

木下 京都のまちづくりは施設・機能が分散型で、京都国際会館を含めさまざまな施設があります。それらを有効活用するネットワーキングが必要だと考えています。当会館では約5千人規模収容の新多目的ホール建設を今年度からスタートします。これだけの恵まれた環境・条件を備えている施設は他にありません。これから課題はどういう会議を誘致するか、そしてどうリピート利用していくか、そのテーマに取り組んでいきたいと思います。

(文中敬称略)

インタビュー◆木下博夫
1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長等を経て2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

REPORT ICC Kyoto

食サービスの現場から

「食」の分野からコンベンションの成功をサポートします。



国立京都国際会館の食事サービスは、コンベンション主催者・参加者をはじめ、国内外の多くの皆様から高い評価をいただいている。会議・イベントを成功裡に収めるための最重要テーマとして「食」が世界的に注目されるなか、大規模コンベンションにおける食事サービスはどうあるべきか、またサービスのさらなるクオリティアップを達成するポイントはどこにあるのか。多種多様なコンベンション・スタイルの食を担ってきた経験と実績をもとに、MICE新時代のニーズに対応する今後の取り組みの一端をご紹介します。

名バイプレーヤーとしての
責任と役割

Responsibility

日本初の国際会議場としてスタートして以来、当館の食事サービス部門は日本を代表する食サービス提供者としての責任と役割を自覚し、つねにご満足いただけるより質の高い食事サービスの提供に取り組んできました。食の企画の立案・実施にあたっては、主催者の意向・要望や参加者の多様な嗜好を周到に検証しつつ最良のプランをご提案、あらゆる種類・形式のコンベンションで確かな実績とノウハウを蓄積してきました。スタートから50年、コンベンションにおける食事サービス提供のトップランナーをめざし、皆さまから高い評価と信頼の声をいただいています。

ストーリー性ある
食スタイルをご提案

Creativity

当館の食事サービス部門は、食の分野からコンベンションを支える、有能なプランナー兼演出家であるべきだと考えています。なによりも会議・イベントを成功に導くという使命のもと、ただご要望にお応えするだけでなく、最新のトレンドや成功例、そして国際会議に学んだ豊富なアイデアなどを付加し、テーマ性・ストーリー性豊かな共感いただける企画をご提案いたします。国立の国際会議場にふさわしい、高水準なサービスを担う経験豊かなスタッフと、高機能でかつ衛生面を最優先した各種厨房設備をフル稼働させ、当館でしかできない洗練されたもてなしを世界の人々に向けて発信しています。

MICE先駆者としての
ノウハウ

Flexibility

国際情勢・社会情勢の急激な変化のなか、コンベンション空間における食へのニーズも多様化しています。各国皇室や王室・国内外VIPへの対応はもとより、地球的視野での環境や健康への配慮、食文化・食習慣への細やかな心配りが求められます。



規模の大小はともあれ、参加者お一人おひとりのご満足こそがコンベンション成功の証であり、スタッフ一人ひとりの誇りでもあります。あらゆる要望に対応する柔軟性、いかなる状況にも瞬時に對処する豊富な経験……、コンベンションを熟知した当館ならではの食事サービスは、日本のMICE先駆者としての歴史を刻んできた、こうした経験とノウハウの集積によって支えられているのです。

一期一会の
もてなしをご提供

Originality

国内外を問わず京都にお越しのお客さまは、京都の伝統文化やおもてなし、千年の歴史・風土に磨かれた食の世界に大きな期待を寄せられます。当館ではオーソドックスで本格的な西洋料理を基本にしながら、ご要望に応じて京の食文化の世界にご案内いたします。老舗有名料亭の弁当や仕出し料理、茶の湯の接待、各種の屋台出店などはもとより、アトラクションとして、五花街の芸舞妓や能狂言をはじめとする伝統芸能や無形文化財などの趣向を取り入れる演出も当館独自のメニューです。そしてなにより、主客が心を通わす和やかな一期一会のもてなし、当館いちばんの“おすすめメニュー”なのです。

料理長からのメッセージ

.....

セミナー形式の多様化に即応

モーニングセミナー、ランチョンセミナー、イブニングセミナー……。限られた時間を有効活用するため、ハードスケジュールでの会議がふえています。早朝に始まるアーリーバードセッショング、朝食を摂りながらの早朝セミナーも増加中。各セミナーとも食事付きが基本ですから、単調にならないよう皆さまの体調なども考慮しながら、スムーズな会議運営をお手伝いしています。



を作成。営業担当者とともに何回も出張し、綿密に内容などを検討して最終的にメニューを作成します。

VIP接遇のケースには

本メニューとは別に、ベジタリアン・ハラール（ムスリムフレンドリー）・甲殻類などアレルギー対応の料理をご用意する場合、VIPなので写真が入手にくくご本人の特定が難しい場合があります。そういうケースでは、特別の方お一人おひとりに料理人とサービス担当者をそれぞれ決め、お名前と特徴の打ち合わせをして当日を迎えます。また、それのお客様に最適なお料理のポーションカットや、裏面から隠し包丁を入れるなどの技術を施すこともあります。

国際会議などのケースには

まず主催機関に料理のご要望をお聞きし、前回開催国の例を参考にしながら、一部の国にかたよらないよう各国の料理を取り合わせて1週間分のメニュー

宿泊施設 ロッジ

開催スタッフの方々に便利なホテルタイプの宿泊施設。当館食堂によるコーヒー・紅茶とパンの朝食無料サービス(6時半～8時半)付きで、コインランドリーも完備。空きがあれば一般の方のご宿泊もOK、こっそり教えた京都情報です。



レストラン グリル

落ち着いた雰囲気のグリルは、一般の方にもご利用いただけます(10時～17時)。ランチメニューはもちろん各種スイーツもご用意。個室も完備していますので、少人数の食事会などにもご利用ください。



詳細はWebサイトをご覧ください <http://www.icckyoto.or.jp/>

TOPICS

国立京都国際会館 主催イベント

2015 宝が池シンポジウム ●いのちにぎわう宝が池公園を未来へ

2015年3月22日(日)13:00~16:30

当館の借景としてかけがえのない宝が池公園の豊かな森がいま大ピンチ！京都議定書が採択されたこの地を、地球環境保全の聖地にふさわしい森に育てていくためにみんなで考えようとの趣旨でシンポジウムが開催されました。

第1部は、文化功労者・日本画家の上村淳之氏による講演「自然との共生観の中で生まれた日本の文化」。第2部は、宝が池公園の「今昔」を振り返り、悪化しつつある状況やその原因について、最新の研究をまじえたパネルディスカッション。続く第3部は「美しい森って、どんな森？ みんなが育む宝が池公園の森」をテーマとしたパネルディスカッション。地域の方々や森で活動するメンバーに当館も加わり、これからの「協働の森づくり」について活発な意見交換を行いました。

3回目を迎えたこのシンポジウムには、予想を上回る200名以上の方が参加。宝が池公園に隣接する当館も、今後もこの森の保全の担い手として積極的な役割を果たしていきたいと考えています。



主催：京都市・京都府立大学森林科学科・京都学園大学バイオ環境学部・
(公財) 国立京都国際会館・(公財) 京都市都市緑化協会
協力：京都宝の森をつくる会・(一社) 日本生態学会 生態系管理専門委員会

第59回 春の宝松庵茶会

予告

2015年4月29日(祝・水)

宝松庵茶会は、昭和59年春に始まって以来、年2回の恒例行事となり今春は第59回を迎えます。裏千家今日庵の方々にお手伝いいただき、本席・副席のほか点心や抽選会、精油を使った匂い袋の実演なども行われます。樹々一斉に新緑に包まれる宝が池で、皆さまにお楽しみいただければと思います。



乾杯の夕べ 2015

予告

2015年8月1日(土)



京都国際会館の夏のイベントとして恒例となりましたガーデンパーティ「乾杯の夕べ」も、今年で19回目を迎えることとなりました。今年は「イタリア共和国」をテーマ国として、イタリアの文化・料理などをご紹介します。京都市内で唯一の打ち上げ花火、庭園ステージでのアトラクションや抽選会など、楽しい催しで皆さまのお越しをお待ちしております。



2015年
4月～7月

開催予定イベント・会合一覧

2015年4月1日現在

催事名	日程	人数
京都精華大学 2015年度入学式	4月 1日	2,100
自主企画イベント『桜・さくらスペシャルデイズ 2015』	4月 4日～ 5日	3,800
第29回日本医学会総会 2015 関西	4月 11日～13日	30,000
世界医学サミット WHS 京都会合 2015	4月 13日～14日	550
第89回日本感染症学会総会・学術講演会	4月 16日～17日	2,000
国際ソロプロミストアメリカ日本中央リジョン 第29回リジョン大会及び2014年度分科会	4月 20日～21日	2,000
ライオンズクラブ国際協会335-C地区第61回年次大会	4月 25日	1,800
これからの医療とまちづくりシンポジウム	4月 26日	1,200
第59回春の宝松庵茶会	4月 29日	600
指定都市サミット in 京都	5月 12日	200
日本顕微鏡学会第71回学術講演会	5月 13日～15日	1,000
京都スマートシティエキスポ 2015・国際シンポジウム	5月 20日	2,000
第15回国際放射線研究会議	5月 25日～29日	1,200
第25回関西高校模擬国連大会	6月 15日～18日	300
第66回近畿中学校長会研究協議会 京都大会	6月 19日	1,300
平成27年度公益社団法人京都府看護協会定時集会	6月 20日	800
第7回国際新興・再興豚病学会	6月 21日～24日	800
(公社) 日本植物園協会創立50周年記念大会	6月 25日～26日	150
第17回力学量標準トレーサビリティ・ワークショップ	6月 26日	190
第3回プロセス化学国際シンポジウム	7月 13日～15日	1,000
ピックアップイベント		
第37回日本呼吸療法医学会学術集会 同時開催 APEL SO 2015	7月 17日～19日	2,500
日本高次脳機能障害学会 2015年夏期教育研修講座	7月 18日～20日	500
第30回日本不整脈学会学術大会・第32回日本心電学会学術集会	7月 28日～31日	3,000

※参加者150名以上の会議

ピックアップイベント

第7回国際新興・再興豚病学会

2015年6月21日(日)～24日(水)

4年に一度開催される国際学術学会。今回は初のアジア開催として、また日本初の養豚関連国際学会の開催として注目されています。世界50ヵ国以上の獣医師、研究者、官公庁、関連企業や生産者らが参加。養豚産業においていま問題となっている新興・再興感染症にフォーカスを当て、その対策に貢献できる研究発表・情報交換を通して直接交流。その学術レベルの高さから、世界各国で高い評価を得ています。

第37回日本呼吸療法医学会学術集会

同時開催 APEL SO 2015

2015年7月17日(金)～19日(日)

人工呼吸など、呼吸管理に関わる医学会の学術集会。APEL SO 2015を同時開催するため、海外からの参加者も多数。とくに今年は夏の祇園祭に染まる京都での開催となるため、祇園祭さなかの京都を期待される参加者も多いことでしょう。開催第1日目は、祇園祭前祭のクライマックス、山鉾巡行の当日。さらに夜には神輿が巡る神幸祭、そして復活した後祭と、京都開催のお楽しみは尽きません。

国立京都国際会館の不思議

1

京都国際会館は映画口ヶ地でもパイオニアだつた？

嵯峨の大覚寺、御室仁和寺、左京区の黒谷さんといえば、京都では時代劇の撮影でおなじみ。とはいっても、近年は全国各地で映画撮影の誘致が盛んで、映画の都といわれる京都もうかうかしてはいられない。

インターネットで検索すると、全国あるいは京都口ヶ地ガイドとして、過去の映画やテレビ番組の口ヶ地を掲載するサイトのなんと多いことか。何年に製作されたこの番組の口ヶ地は、出演者は、と即座に教えてくれる。

だがこの京都に、特撮ファンの聖地とされる映画口ヶ地があることは、こうした口ヶ地ガイドには残念ながら出てこない。その聖地がほかでもない、国立京都国際会館である。1968年の特撮テレビ番組「ウルトラセブン」と聞くだけで、その頃まだ生まれていなかつた特撮マニアにも通用するのだそうだ。「ウルトラセブン」では、京都国際会館は地球防衛軍の基地となつて登場した。会館が誕生して2年足らずの時期

だけに、当時この建物外観がいかに目を惹くものであったかがよくわかる。

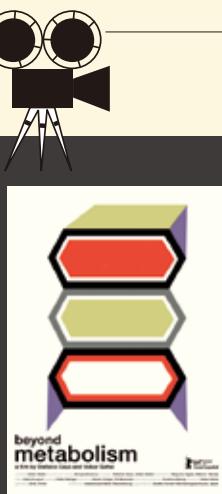
このテレビ「テレビユー」が引き金となつたのが、京都国際会館はその後、とくに「アメリカ映画の口ヶ地として好まれ、何度も『映画出演』することになる。シドニー・ボラック監督、ロバート・ミッチャム、高倉健、岸恵子出演の「ザ・ヤクザ」(75)、三船敏郎、中村敦夫出演の日本未公開「ザ・チャレンジ」(82)、SF映画「ロボ「ップ3」(93)。日本映画では、やはり特撮ものの「宇宙からのメッセージー」(78)。ここでも近未来の司令部といつ設定であった。

ネット上に口ヶ地ガイドが多いとはいっても、そこにある情報の多くは90年代以降のもので、早く80年代の情報がポツリポツリ。京都国際会館が特撮口ヶ地となつた60、70年代といえば、まだまだ情報未開拓の、口ヶ地草創期ともいえる時代であった。もちろん京都には、往年の名作映画の口ヶ地は数多い。しかしその大半は、いわゆる京都

ものの映像であった。そこに現出した京都国際会館は、京都や日本というスケールを超えた、文字通り世界の普遍的建築物。それを近未来イメージの象徴として、映像のプロは見逃さなかつた。

2005年、倉本聰脚本、渡哲也、藤原紀香出演のテレビドラマ「祇園囃子」で、久しぶりに会館口ヶ地が行われた。そして2014年、ドイツ人映画監督が今度は口ヶ地としてではなく、京都国際会館という建築物を主役にしたドキュメンタリー映画を発表した。会館はまもなく満50歳。すばらしい建築物は生きものとして、その生きざまを描いた映画だ。時を重ねるほどに、会館の建築的評価は高まつているがそれにしても、この建物の生命力にいち早く気づいていたのは、ほかでもない口ヶ地探しのプロたち。その日の確かさを、いまさらながらに想つのである。

文・黒田正子



京都国際会館の建築をテーマにしたドキュメンタリー映画「Beyond Metabolism」のRoom Aでの上映会



本映画はシュテファニー・ガウス氏（左）とフォルカー・ザッテル氏（右）による共同監督作品



表紙のことば

寺田みのる
(スケッチ作家・エッセイスト)

国立京都国際会館には思い出がある。大手家電メーカーのサラリーマン時代、全国規模の会議の責任者として何度も通った。ちょっと昔の懐かしき思い出。そんなことを思い出しつつ宝ヶ池からの景色を描いた。

ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

国立京都国際会館

検索

©All right reserved - Kyoto International Conference Center

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
住所 〒606-0001 京都左京区宝ヶ池
TEL 075-705-1218
FAX 075-705-1100
E-mail com@icckyoto.or.jp
URL http://www.icckyoto.or.jp/